

Global studies第3号 : 表紙, 執筆要綱, 執筆者一覧, 奥付

雑誌名	Global studies
号	3
発行年	2019-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001145/

GLOBAL STUDIES

グローバルスタディーズ

3
2019

研究論文

- 1 高楠順次郎の教育思想——日華学堂の学生の転地勉学を通じて —— 樂 殿武
- 13 異文化コミュニケーション能力の同定：
グローバルコミュニケーション学科のためのルーブリックの構築 —— 古家 聡・石黒 武人
- 27 短期ジャパNSTディプログラムの意義と課題—受講生のアンケートから —
—— 堀井 恵子・高橋 桂子・難波 房枝・矢野 和歌子・野村 琴菜
- 39 CDAの視点により安倍施政演説における北朝鮮問題に関する言説の批判的分析 —— 楊 漪漪

レビュー論文

- 55 リンガフランカとしての英語：学習者の視点とELTへの展望 —— Matthew Thomas Wilkinson

研究ノート

- 67 グローバルビレッジとはどの程度アメリカンビレッジと解釈されるべきであるのか。 —— 有江 和美
- 77 日本文化の英語による内容言語統合型学習(CLIL)の実践と可能性 —— 網島 珠美・山下 理恵子



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所

武蔵野大学 グローバルスタディーズ研究所紀要
Global Studies 執筆要領

1. 投稿資格

グローバルスタディーズ研究所の研究員及び客員研究員、科目担当教員（大学院言語文化研究科、グローバル学部、グローバル・コミュニケーション学部（非常勤講師を含む））、大学院言語文化研究科の大学院生及び修了生とする。また、以下のいずれかに該当する者は、グローバルスタディーズ紀要編集委員会で認めた場合に限り投稿することができる。

- (1) 本研究センター専任教員と共同研究に従事する者
- (2) 紀要編集委員会が特別に依頼した者

原稿は未発表のもので、1人1編とする。共同研究の場合は1人2編までとするが、筆頭者としては1編しか投稿できない。

2. 使用言語

日本語、英語、中国語のいずれかとする。

3. 原稿作成上の注意

- (1) 原稿の様式と分量

原稿はワープロ横書きの Word 文書で作成する。

分量は、日本語・中国語原稿の場合は A4 用紙 43 字×40 行で、20000 字以内（12 枚程度）とする（注、参考文献、図表を含む）。

余白は上 35mm、下、左、右とも 30mm（Word の規定値）とする。

英語原稿の場合は、A4 用紙（または国際版タイプ用紙 216 × 290mm）36 枚以内（刷り上がり約 12 枚、注、参考文献、図表を含む）とする。

- (2) 表記法（日本語）

①日本語は常用漢字、現代仮名遣いを原則とする。

②数字は原則として半角アラビア数字とする。ただし、「一切」「四半世紀」などの熟語、成句、固有名詞に限り漢数字を使用する。

③句読点は「、」「。」を使用する。

④句読点、「」、（ ）は全角で使用する。

- (3) 論文タイトルおよびサブタイトル

日本語原稿には日本語タイトルの下に英語タイトルを入れる。英語原稿・中国語原稿にはそれぞれの言語のタイトルの下に日本語タイトルを入れる。

- (4) キーワード

キーワードは5語以内とし、論文タイトル、氏名の下に記載する。

- (5) 注

注は本文中に上付添字で1)2)3)…と通し番号で示し、原稿末尾の参考文献の前にまとめる。ワードの脚注機能は使用しない。

(6) 参考文献

参考文献は原稿末尾にまとめる。以下の書式で統一する。

①英文書籍

Ellis, Rod (2003) *Task-based Language Learning and Teaching*. Oxford: Oxford University Press.

②英文論文

Langacker, Ronald W. (2006) "On the continuous debate about discreteness", *Cognitive Linguistics* 17: 107-151.

③和文書籍

加藤周一 (2007) 『日本文化における時間と空間』 岩波書店

④和文論文

杉山洋介 (2009) 「百科事典的意味観」『認知言語学論考』 No.9: 1-38 ひつじ書房

4. 抜刷りについて

抜刷りは一論文に対して 30 部とする。それ以上を希望する場合は実費自己負担とする。

5. 原稿提出期日他スケジュール

年 1 回、委員会の定める期日までに提出する。

6. 原稿提出方法及び提出先

原稿は、武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会 (gs_edit@musashino-u.ac.jp) 宛に、電子データをメールにて提出する。

7. 提出原稿の校正

著者校正は 2 回までとする。校正段階での原稿の大幅な訂正、加筆、削除は控える。

執筆者一覧（掲載順）

【研究論文】

禰 殿 武	Hirotake Ran	グローバル学部グローバルビジネス学科教授
古 家 聡	Satoru Furuya	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科教授
石 黒 武 人	Taketo Ishiguro	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科准教授
堀 井 恵 子	Keiko Horii	グローバル学部日本語コミュニケーション学科教授
高 橋 桂 子	Keiko Takahashi	グローバル学部非常勤講師
難 波 房 枝	Fusae Namba	グローバル学部非常勤講師
矢 野 和歌子	Wakako Yano	グローバル学部非常勤講師
野 村 琴 菜	Kotona Nomura	グローバル学部非常勤講師
杨 漪 漪	Yiyi Yang	グローバルスタディーズ研究所研究員

【レビュー論文】

Matthew Thomas Wilkinson	グローバル学部非常勤講師
--------------------------	--------------

【研究ノート】

有 江 和 美	Kazumi Arie	グローバル学部非常勤講師
綱 島 珠 美	Tamami Tsunashima	グローバル学部非常勤講師
山 下 理恵子	Rieko Yamashita	グローバル学部非常勤講師

Global Studies 第3号

2019年3月1日発行

編 集 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会

発 行 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所

〒135-8181 東京都江東区有明3-3-3

電話 03-5530-7312

印 刷 株式会社 創文

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町13-1

電話 03-5643-3321

GLOBAL STUDIES

3
2019

RESEARCH PAPER

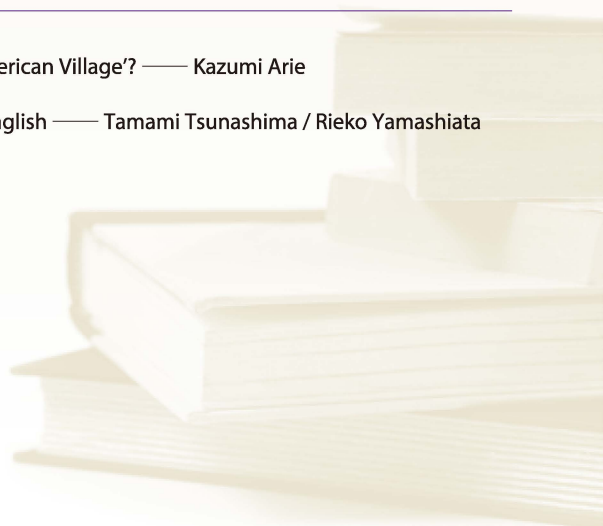
- 1 A Study of the Educational Thought of Junjiro Takakusu:
Insights from a Field Study by the Students of the Nikka School — Hirotake Ran
- 13 Identifying Intercultural Communication Competence:
The Construction of a Rubric for the Department of Global Communication — Satoru Furuya / Taketo Ishiguro
- 27 The Significance and Issues on Short term Study Abroad in Japan Program:
Perspectives Arising from Student's Questionnaires
— Keiko Horii / Keiko Takahashi / Fusae Namba / Wakako Yano / Kotona Nomura
- 39 安倍施政演説中关于朝鲜问题表述的批评话语分析 — Yiyi Yang

REVIEW PAPER

- 55 English as a Lingua Franca (ELF):
The Students' Perspective and Its Implications for English Language Teaching. — Matthew Thomas Wilkinson

RESEARCH NOTE

- 67 To What Extent Is the 'Global Village' Best Understood as an 'American Village'? — Kazumi Arie
- 77 The Practice and the possibility of CLIL for Japanese culture in English — Tamami Tsunashima / Rieko Yamashita



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University's Institute for Global Studies